

第4号	<b>日の出町内会かわら版</b>	発行日2023年6月
不定期発行		日の出町内会広報部

かわら版、第4号の発行です。3号は竹スキーと雪スケートの話でした。前々回の第2号では、藻岩山の麓の昔の様子などを紹介しましたが、今回は南警察署と山鼻南小学校の敷地が墓地だったことなどを紹介します。

屯田兵の入植で始まった北海道の開拓には、この地区(中央区の南側と南区の一部)はかつて山鼻村と呼ばれていました。東北各県の元士農240戸が北門警備と開拓のため入村したと記されています。山鼻墓地の前身は、明治10年に曙野区民共同墓地(曙墓地・現在の南11条西10丁目)に屯田兵専用墓地が作られ、明治29年10月には、山鼻墓地として屯田兵及び付近住民の共同墓地になりました。



南警察署隣の 日の出公園



日の出公園

その後大正15年7月に曙墓地が廃止され山鼻墓地(現在の南29条西10丁目)へ移転し、昭和41年10月に山鼻墓地を廃止し平岸霊園へと移転しました。平岸霊園には山鼻墓地移転由来が記された碑が立っています。

私事で恐縮ですが、祖父は石川県山中温泉の山間に生まれました。曾祖父猪之吉が明治44年に屯田兵として入植、次男の祖父は大正11年に分家し開墾しました。(川沿地区南の沢1812番地)～札幌藻岩郷土史八垂別(はったりべつ)より(昭和57年発刊)～

話しは元に戻りますが、山鼻屯田記念会館が南14条西9丁目にあり、その歴史を伝える資料館になっています。興味がある方は寄ってみてはいかがでしょうか。(写真左下)

山鼻墓地移転の後は、昭和44年に南警察署ができるまでは空き地の「原っぱ」でした。町内会の盆踊りはここで開催されて大いに賑わっていました。



日の出公園

屯田兵は小樽から徒歩で札幌山鼻に入りました。当時の山鼻は、その昔アイヌの居住地で「ユクニクリ」（鹿の多くいる所）と呼ばれていました。「山鼻」という地名の由来は、藻岩山が迫り出てきた山麓に位置していることから、山の端、山の鼻ということで「山鼻」と呼ばれるようになったとか。現在は札幌の中心部に位置し、東西の中心を国道230号線（通称石山通）が定山溪温泉方面に走行しています。南14条を東西に走る道路は、当時の皇太子（後の大正天皇）が山鼻村を視察に訪れた事から「行啓通り」と名付けられています。

→左の写真は、山鼻墓地が平岸墓地へ移転した際の由来の碑（在平岸墓地）。右は大正初期の東屯田通



大正時代初期の東屯田通

住所には無い“山鼻”



実は、山鼻という住所は現在の札幌には無く、豊平川と藻岩山に挟まれた南3条～南30条付近のエリアが山鼻村として明治時代に開拓されたことに由来します。明治以前は藻岩山の端にあるということで「山端（やまはな）」と呼ばれていました。その後、文字を変えて「山鼻」になりましたが、その理由は今も分かっていません。山鼻は中央区の外れにありながら区内最多の人口約3万6000人を誇ります。

です（現在の南8～南23条の西8丁目と9丁目の間です）。

2019年11月にSTV放送で、山鼻地区の特集がありました。

大まかに山鼻地区と言う地域はありますが、山鼻という住所はない。

山鼻の名前の由来が左の説明に書かれています。藻岩山の「端」（はし、鼻先）で山端「やまはな」と呼ばれていたのが、文字を変えて山鼻になったとか。

町内の明るいニュースや昔の町内写真をお持ちの方は、お知らせいただければ幸いです。（日の出町内会広報部）

